



umango

処理のコネクタ手順書

マージ フィールド

マージ フィールド

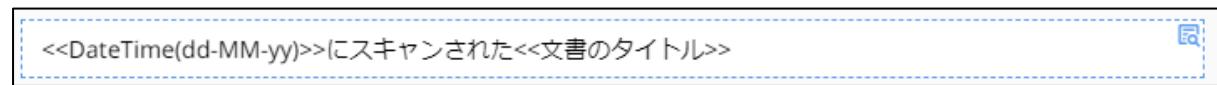
Umango の「マージ フィールド」は、Umango のテキスト フィールド。新しい情報を生成したり、OCR プロセスから取得した情報をカスタマイズしたりできます。このフィールドは、エクスポート処理中に、ドキュメントやフォルダーの命名、テキスト ファイルのデータ フィールドの入力、データベースの挿入や変更など、さまざまな目的で使用できます。「マージ フィールド」は、下の図に示すように、隅に小さなアイコンがある青い点線の境界線の入力フォームで簡単に識別できます。



「マージ フィールド」の入力フォーム

キーワードを入力して「マージフィールド」機能を使用するか、小さなアイコンをクリックして目的の「マージフィールド」機能を検索することができます。

「マージフィールド」を使用するには、キーを「<>>」内にカプセル化する必要があります。



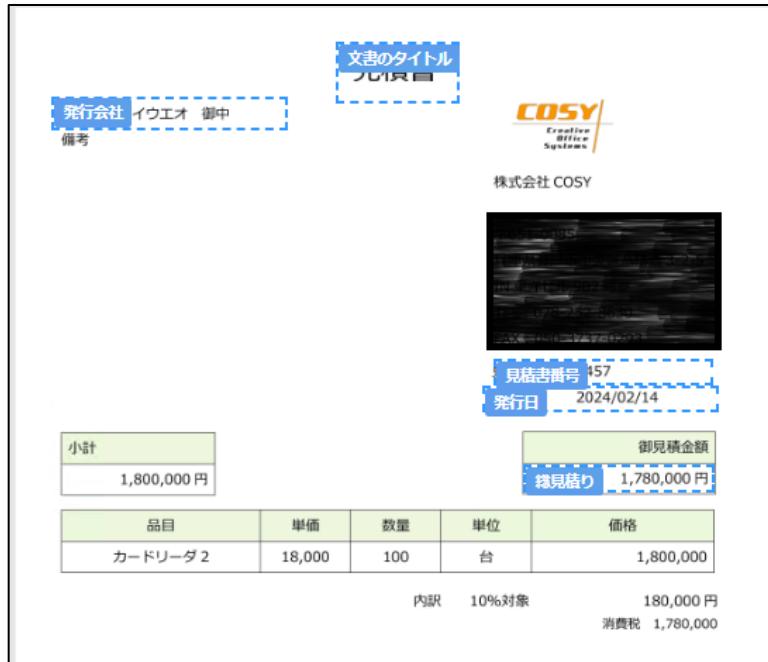
「マージ フィールド」の例

以下にリストされているように、使用できる「マージフィールド」の種類が
は多数あります。

1. **Zone & Index:** 「ゾーン」と「インデックス」から取得した値を使用します。
2. **Ask AI:** AI エンジンに質問や要望を出し、その結果を利用します。
3. **DateTime:** 決めた形式に基づいて日時を取得します。
4. **DateAdd:** 日付値に日数、時間数、週数などを「X」加算します。
5. **Autonumber:** 増分番号を自動的に生成します。
6. **FormatNumber:** 決めた形式に基づいて数値を取得します。
7. **Case:** テキストの大文字と小文字が統一されるように変更します。
8. **Compute:** 数式を計算します。
9. **Trim:** テキストの先頭または末尾の空白を削除します。
10. **Replace:** 文字を検索して置き換えます。
11. **NumberToWord:** 数値をアルファベット値に変換します。
12. **If:** オプションの出力を提供する条件付きケース。
13. **Regex:** データの検索と抽出に正規表現 (REGEX) を適用します。
14. **LDAP:** Active Directory / LDAP ソースからプロパティ値を取得します。
15. **XML:** xPath を使用して XML ファイルからデータを読み取ります。
16. **HTMLEncode:** HTML または XML ファイルで使用するためにテキストをエンコードします。

1. Zone & Index

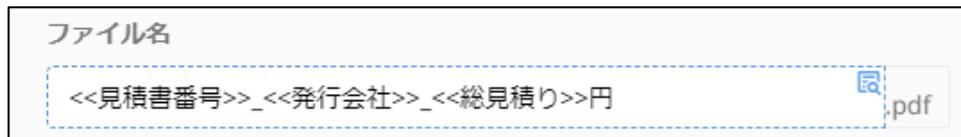
「ゾーン」、「インデックス」、または「AI フィールド」から取得した情報を使用します。値を使用するには、マージフィールドで「ゾーン」、「インデックス」、または「AI フィールド」の名前を参照してください。使用例。



ゾーン名の例

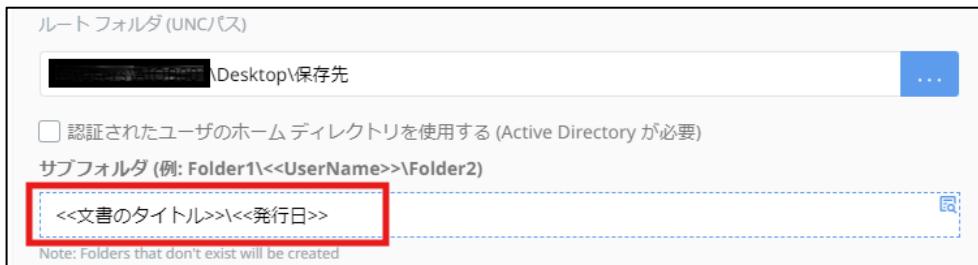
上の画像のゾーンから、ゾーン情報を取得して操作できます。

- ドキュメントの名前を変更する



結果の例：X123Y4567Z_ABCD_会社_70000円.pdf

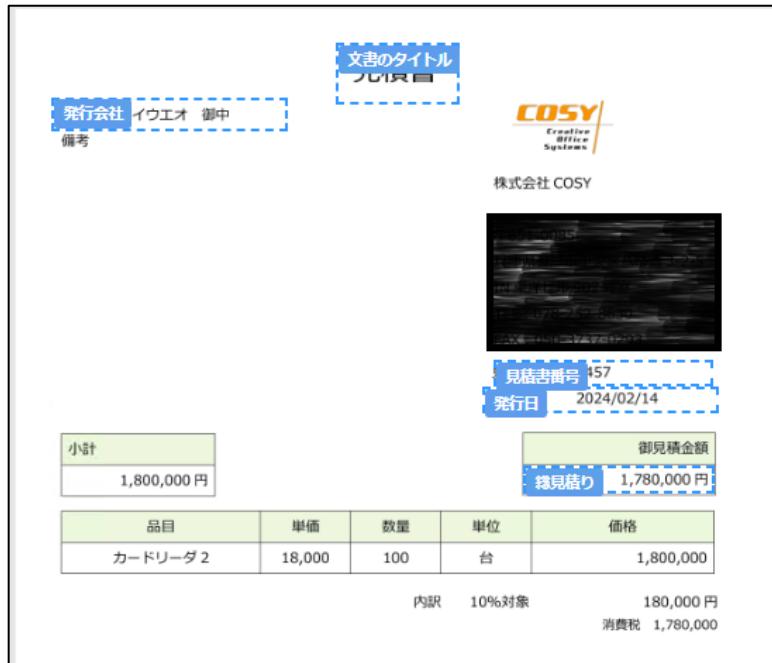
- フォルダとサブフォルダの作成



ドキュメントのタイトルと発行日を使用してサブフォルダーを作成する

2. Ask AI

「Ask AI」マージ方式により、ユーザーは Umango に質問したり、コマンドを出して情報を取得したりできるようになります。ユーザーは、ゾーン内の情報に関連する情報、またはゾーンに関連しない情報を問い合わせることができます。使用例。



ゾーン名の例

上記の選択したゾーンから、Umango AI に特定の情報の変更または取得をリクエストできます。

- 「総見積り」の特定の情報を入手する

AIリクエストに聞く

通常の言語を使用して、ゾーン領域の画像について AI エンジンに質問します。

支配的な色は何ですか?
これはどのような種類の文書ですか?
請求書番号を取得する

会社のロゴはありますか?
テキストの主な言語は何ですか?
テーブルエリアをHTML形式に変換する

質問

数字のみを取得し、「!」を含む他の文字を削除します

精度を上げるには、[書式設定と検証] タブにあるフィールドに書式構造を含めます

私の質問に参照画像を含めてください
参照画像はあなたの質問に役立ちます。例えば。ロゴは画像領域のどこかに表示されていますか?

結果の例：1780000

- 「発行日」の日付の後に曜日名を追加する

AIリクエストに聞く|

通常の言語を使用して、ゾーン領域の画像についてAIエンジンに質問します。

支配的な色は何か?	会社のロゴはありますか?
これはどのような種類の文書ですか?	テキストの主な言語は何ですか?
請求書番号を取得する	テーブルエリアをHTML形式に変換する

質問

取得した日付に基づいて曜日の名前を追加します

精度を上げるには、[書式設定と検証] タブにあるフィールドに書式構造を含めます

私の質問に参照画像を含めてください
参照画像はあなたの質問に役立ちます。例えば。ロゴは画像領域のどこかに表示されていますか?

結果の例：1780000

Ask AI はゾーンを必要とせずに使用することもできます。使い方については下記の説明をご確認ください。

使用方法	
<<AskAI(「質問またはコマンド」)>>	指定した質問やコマンドに対して回答を提供したり、コマンドを実行したりします

使用例：

- メールで具体的な情報を入手するよう依頼する

PaperCut ポイントチャージ

37通の10通目のメッセージ ◀ ▶

発信者 Muhamad Azam Fuadi ↗
宛先 noreply@cosydashboard.com ↗
日付 2025-03-12 10:05

新しい PaperCut ポイントチャージ です。
チャージ金額: ¥5000
ユーザ名: azam@cosy.co.jp

PDF inv_46721389.pdf (~184 KB)

ヘッダ 本文 フッター

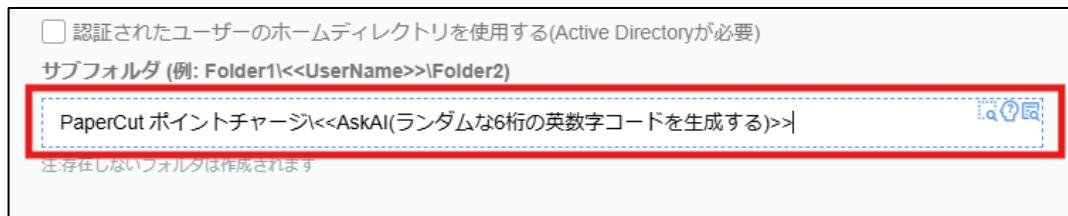
本文の文書データを結合する

本文のテキスト

```
,"<<AskAI("<<Emailmap.Data[EmailBody]>>"テキストからユーザー名またはユーザメールを取得する)>>"
```

結果の例：azam@cosy.co.jp

- ランダムな 6 文字の英数字を使用してサブフォルダ名を作成する



結果の例 : PaperCut ポイントチャージ/ABC3d1

3. DateTime

DateTime マージ方法は日付と時刻を操作し、必要な形式に変換します。日時が指定されていない場合、Umango は現在の日付と時刻を使用します。使い方については下記の説明をご確認ください。

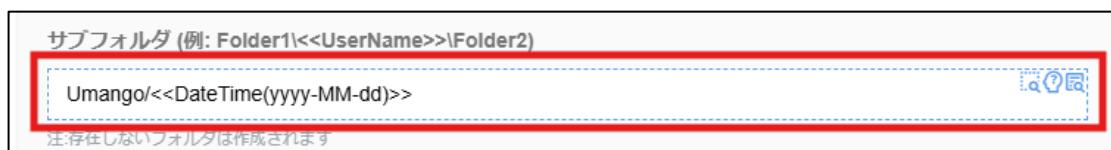
使用方法	
<<DateTime(日時フォーマット)>>	現在の日付と時刻を希望のフォーマットで取得する
<<DateTime([日時テキスト] , [日時フォーマット])>>	日時のテキストを希望のフォーマットに変換する
<<DateTime([日時テキスト] , [言語コード] , [日時フォーマット])>>	日時のテキストを希望の言語とフォーマットに変換する

パラメータ:

- 日時フォーマット: 結果の日時の表示方法を記述する書式指定子。
- 日時テキスト: 日時として解釈できるテキスト値。例: 31-Dec-21; 31-12-2021; 31/12/2021; など。
- 言語コード: ISO 639 スタンダードに基づいた地域言語。

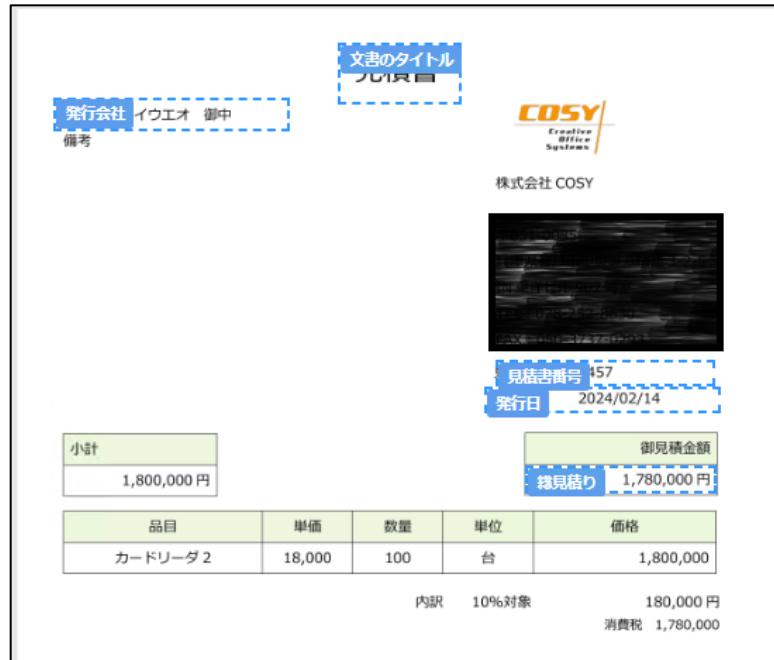
使用例:

- 現在の日付と時刻を使用してサブフォルダを作成する。たとえば、現在の日時は 2024/08/01。



結果の例 : Umango/2024-08-01

`DateTime` は、ゾーンまたは他のソースから取得した情報を変更するためにも使用できます。



ゾーン名の例

- 取得した発行日を別のフォーマットに変更する

サブフォルダ (例: Folder1\<<UserName>>\Folder2)

Umango/\<<DateTime([<<発行日>>],[yyy-MM-dd])>>

注:存在しないフォルダは作成されます

結果の例 : Umango/2024-02-14

- 取得した発行日を別の言語とフォーマットに変更する

サブフォルダ (例: Folder1\<<UserName>>\Folder2)

Umango/\<<DateTime([<<発行日>>],[ja], [yyyy年MM月dd日])>>

注:存在しないフォルダは作成されます

結果の例 : Umango/2024 年 02 月 14 日

4. DateAdd

DateAdd マージ方法は日付に時間/日付間隔を追加し、新しい日付を返します。使い方については下記の説明をご確認ください。

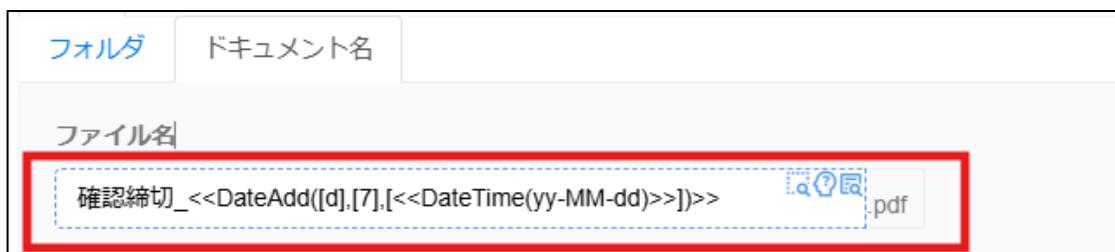
使用方法	
<<DateAdd([間隔], [番号], [日時])>>	指定された日付と時刻に間隔（日数、分数など）を追加し、デフォルトのシステム形式を使用して新しい日付/時刻を表示する。
<<DateAdd([間隔], [番号], [日時], [日時フォーマット])>>	指定された日付と時刻に間隔（日数、分数など）を追加し、指定された形式を使用して新しい日付/時刻を表示する。

パラメータ:

- **間隔:** 追加する時間/日付間隔。利用可能な間隔:
 - year, yyyy, yy = 年
 - month, mm, m = 月
 - day, dd, d = 日
 - hour, hh, h = 時間
 - minute, mi, n = 分
 - second, ss, s = 秒
 - millisecond, ms = ミリ秒
- **番号:** 日付に追加する間隔の数。正数（将来の日付を取得する場合）または負数（過去の日付を取得する場合）になります。
- **日時:** 日時として解釈できるテキスト値。例: 31-Dec-21; 31-12-2021; 31/12/2021; など。
- **日時フォーマット:** 結果の日時の表示方法を記述する書式指定子。

使用例:

- 現在の日付と時刻に 7 日を追加する。たとえば、現在の日時は 2024/08/01。



結果の例 : 確認締切_2024-08-08.pdf

- 現在の日付と時刻を 1 年減らし、年の値のみを取得する。たとえば、現在の日時は 2024/08/01。

フォルダ	ドキュメント名
ファイル名	
<input type="text" value="アーカイブ_<<DateAdd([y],[-1],[<<DateTime(yy-MM-dd)>>], [yyyy])>>.pdf"/>	

結果の例：アーカイブ_2023.pdf

5. AutoNumber

AutoNumber マージ方法は、自動的に増分番号を生成します。これは、バッチ番号またはスタンプに特に便利です。使い方については下記の説明をご確認ください。

使用方法	
<<AutoNumber>>	処理に固有の増分自動番号を作成する。
<<AutoNumber(n)>>	処理に固有の n 行の自動増分番号を作成する。
<<AutoNumber([識別子])>>	指定された識別子に固有の自動番号の増加
<<AutoNumber([識別子],[n])>>	指定された識別子に固有の n 行の自動番号の増加

パラメータ：

- n:** 自動番号の定義された長さ
- 識別子:** 一意の識別子の名前。例えば: バッチ名、テスト名、など。

使用例：

- 現在の日時と自動番号を使用してドキュメントに名前を付ける。たとえば、現在の日時は 2024/08/01。

フォルダ	ドキュメント名
ファイル名	
<input type="text" value="<<DateTime(yyyy-MM-dd)>>_<<AutoNumber>>.pdf"/>	

結果の例：2024-08-01_1.pdf

- 現在の日時と5桁の自動番号を使用してドキュメントに名前を付ける。たとえば、現在の日時は 2024/08/01。

フォルダ	ドキュメント名
ファイル名	<<DateTime(yyyy-MM-dd)>>_<<AutoNumber(5)>> pdf

結果の例 : 2024-08-01_00001.pdf

6. FormatNumber

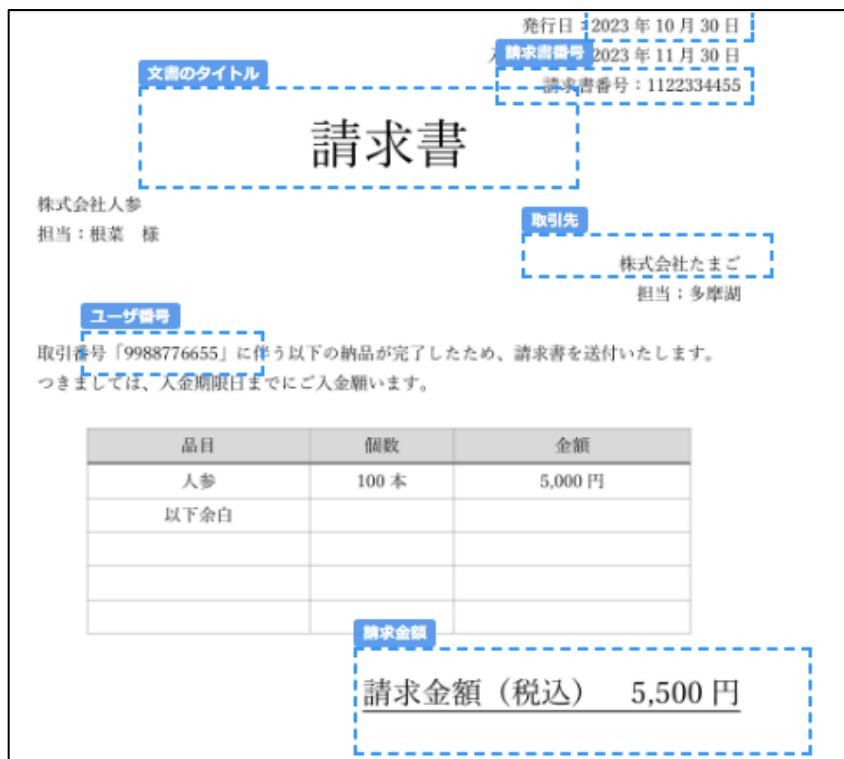
FormatNumber マージメソッドは、任意の数値を指定された形式に変換します。使い方については下記の説明をご確認ください。

使用方法	
<<FormatNumber([番号ソース], [番号フォーマット])>>	番号ソースを指定された形式に変換する

パラメータ:

- 番号ソース: 変換される数値
- 番号フォーマット: 数値の表示方法を指定する書式指定子。

使用例:



ゾーン名の例

- 取得した「請求金額」を小数点第2位までの数値に変換します。たとえば、取得した「請求金額」は 5500。This is something that I would like to know

ヘッダ 本文 フッター

本文の文書データを結合する

本文のテキスト

```
"<<AutoNumber>>","<<FormatNumber[<<請求金額>>].[N2]>>","<<EmailMap.Data[EmailDateTime]>>";
```

結果の例 : 2024-08-01_1.pdf

7. Case

Case マージメソッドは、テキストの大文字(UCase)または小文字(LCase)を統一されたフォーマットに変換します。英字以外の文字は変更されることはありません。

使用方法	
LCase(text)	テキストを全て小文字に変換します。
UCase(text)	テキストを全て大文字に変換します

パラメータ

- **Text** : 大文字または小文字に統一する対象のテキスト

使用例

例 1

ドキュメントに名前を付ける際、すべて大文字に統一する。

ファイル名

```
Scanned By<<UCase(<<UserName]>>)>>
```

実行結果例 : Scanned By TANAKA

例 2

ドキュメントに名前を付ける際、すべて小文字に統一する。

ファイル名

```
Scanned By<<LCase(<<UserName]>>)>>
```

実行結果例 : Scanned By tanaka

8. Compute

Compute マージメソッドは、数式に基づいた数学的計算を実行します。

使用例	
Compute(Expression)	指定された数式に基づいて計算を実行します

パラメータ

- **Expression** : 計算する式を指定します。

テキストとして解析されますが、数値に基づく数学的な式の必要があります。

使用例

例 1

ゾーンで指定した「請求金額」から、消費税 10%を差し引いた合計を計算する。

The screenshot shows a configuration interface for a fixed index. It has two input fields: 'Index Name' (税別金額) and 'Value or Merged Lockup' (<<Compute(<<請求金額>> * 100/110)>>). A search icon and a 'Add' button are also visible.

実行結果例 : 5000 円

9. Trim

Trim マージメソッドは、指定したテキストの先頭と末尾の空白を削除します。

使用方法	
Trim(TextToTrim)	指定したテキストの先頭と末尾の空白を削除します
TrimStart(TextToTrim)	指定したテキストの先頭の空白のみを削除します
TrimEnd(TextToTrim)	指定したテキストの末尾の空白のみを削除します

パラメータ

- **Text to Trim** : 空白を削除したい対象のテキスト

使用例

ゾーン「取引先」の値から、先頭と末尾の空白を除去する。

The screenshot shows a configuration interface for a fixed index. It has two input fields: 'Index Name' (固定インデックス) and 'Value or Merged Lockup' (<<Trim(<<取引先>>)>>). A search icon and a 'Add' button are also visible.

実行結果例 : 株式会社たまご

備考

値の中にあるすべての空白（先頭・末尾だけでなく）を削除したい場合は、以下のように Replace メソッドを使用することを検討してください。

```
<<Replace([<<ZoneName>>],[\s],[])>>
```

10. Replace

Replace マージメソッドは、正規表現ルールに一致するテキストを検索し、それを指定したテキストに置き換えます。

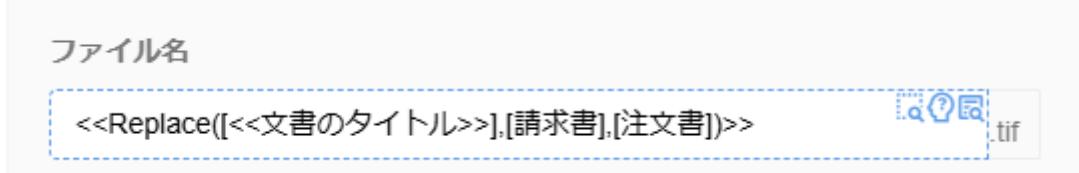
使用方法	
Replace([SearchText],[Find],[Replace])	テキストを検索して置き換えを行います

パラメータ

- **SearchText** : 検索対象となるテキスト
- **Find** : SearchText 内で検索する文字列または正規表現
- **Replace** : Find 条件に一致した部分を置き換えるためのテキスト

使用例

ゾーン「文書のタイトル」内にあるすべての"請求書"を"注文書"に置き換える。



実行結果例：注文書発行のお知らせ

11. NumberToWord

Number to word メソッドは、数値を英語の話し言葉形式に変換します。

「100304」と表示される代わりに、このメソッドを使うと「one hundred thousand three hundred and four」と変換されます。

使用方法	
NumberToWords(NumberToConvert)	数値を英語の話し言葉に変換します

パラメータ

- **NumberToConvert** : 変換対象の整数値。小数点以下は無視されます。

使用例

ゾーン値に基づき、ドキュメントを「値を単語化したフォルダ」に格納する。

サブフォルダ (例: Folder1\<<UserName>>\Folder2)

<<NumberToWords(<<請求金額>>)>>



注:存在しないフォルダは作成されます

実行結果例: ゾーン値が 5000 の場合、フォルダ名は「Five thousand」と変換されます。

備考

このメソッドは小数点以下の値を変換しません。

もし数値に小数点以下が含まれていても、無視されます。

12. If

IF マージメソッドは、論理式の結果に応じて 2 つの値のいずれかを選択します。

IF 文には 2 つの結果があります。比較が True の場合に選択される値と、False の場合に選択される値です。

使用方法	
IF([Expression], [TrueValue], [FalseValue])	論理式に基づき、結果を選択します

パラメータ

- Expression :

1 つの値と別の値を比較して、True または False の結果を得るための式。

テキスト値はシングルクオート '' で囲みます。

数値値はクオート不要です。

※式の使用方法と構文の詳細は「論理式セクション」を参照してください。

- True Value :

式の結果が True だった場合に使用される値。

シングルクオート ' を含む場合は、クオートを二重に " する必要があります。

- False Value :

式の結果が False だった場合に使用される値。

こちらもシングルクオートは二重にします。

使用例

佐藤さんがスキャンした場合のみ 「Files for Sato」 フォルダに保存し、それ以外は 「Files for everyone」 フォルダに保存する。

サブフォルダ (例: Folder1\<<UserName>>\Folder2)

<<If(['<<UserName>>'='sato'],[Files for Sato],[Files for everyone])>>



注:存在しないフォルダは作成されます

ユーザに基づくエクスポート先フォルダの選択例

備考

テキスト結果にシングルクオート'を含めたい場合は、クオートを二重にする必要があります。

NG 例（このままだと動きません）：

```
<<IF(['<<UserName>>'='greg.b'],[Greg's Files],[Everyone's Files])>>
```

OK 例（正しい書き方）：

```
<<IF(['<<UserName>>'='greg.b'],[Greg"s Files],[Everyone"s Files])>>
```

あるいは、Replace メソッドを使って自動的にシングルクオートを処理する方法もあります：

```
<<IF(['<<UserName>>'='greg.b'],[<<Replace([<<GregFolder>>],[],["")>>],[<<Replace([<<EveryoneFolder>>],[],["")>>])>>
```

13. Regex

Regex マージメソッドは、正規表現（Regex）を使って、テキストの中から特定の部分を検索・抽出します。

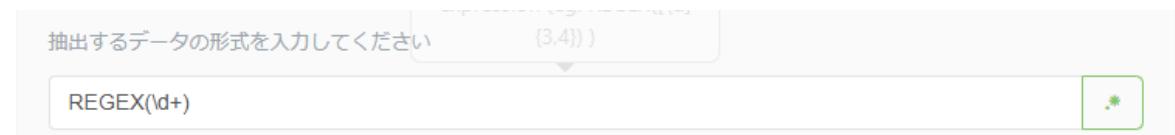
使用方法	
Regex([SearchText],[Exp])	正規表現を使用してテキストを抽出します
Regex([SearchText],[Exp],[Count])	正規表現に一致した結果の総数を返します。
Regex([SearchText],[Exp],[n])	複数の一一致がある場合に、 n 番目の結果を抽出します。

パラメータ

- **SearchText** : 抽出対象となるテキスト
- **Exp** : 抽出対象を検索・取得するための正規表現
- **Count** : 正規表現に一致した結果の件数を返します
- **n** : 正規表現結果のうち、取得したい n 番目の結果を指定します。
(指定がない場合は最初の結果を返します。存在しない場合は空になります)

使用例

数字だけをキャプチャする。

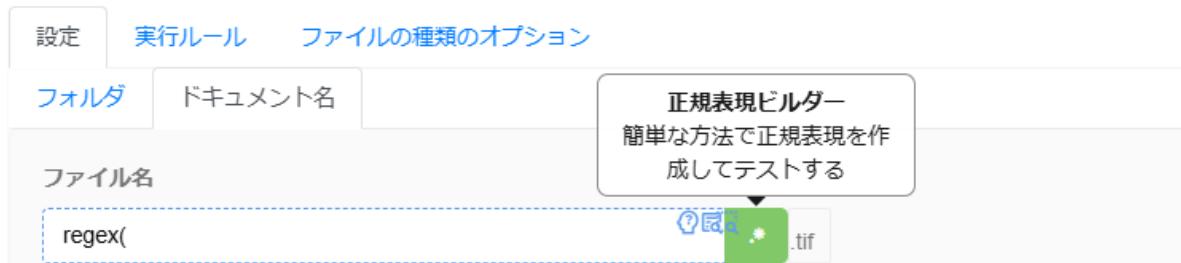


例：ゾーン「見積番号：12345」から、12345だけを抽出。

備考

マージフィールド内で正規表現を使用する際、Umango には便利な「正規表現ビルダー」ツールがあります。

マージフィールドに正規表現メソッドを追加すると、右側に緑色の「**regex** ビルダーボタン」が表示され、それを使って複雑な正規表現を簡単に作成できます。



外部にも多くの正規表現ビルダーサイトがあり、役立ちます：

- www.regex101.com
- www.regexpal.com
- www.regexr.com

14. LDAP

LDAP マージメソッドは、Active Directory または LDAP サーバーに対して検索（ルックアップ）を行い、ユーザーのプロパティ値を取得します。

使用方法	
LDAP(FieldName)	バッチ所有者（バッチを作成したユーザー）のプロパティ値を取得します。
LDAP(FieldName , UserName)	指定されたユーザーのプロパティ値を取得します。

パラメータ

- **FieldName** : 取得したいユーザープロパティの名前を指定します。
※よく使われるプロパティ名は下記に記載されています。
- **UserName** : プロパティを取得したいユーザー名。
指定しない場合はバッチ所有者（バッチ作成者）のユーザー名が使用されます。

使用例

ユーザーのホームディレクトリ情報 (`homeDirectory` プロパティ) を LDAP 検索し、ドキュメントを各ユーザーのホームディレクトリに配置する。

行き先

ルート フォルダ (UNCパス)

認証されたユーザーのホームディレクトリを使用する (Active Directory または LDAP が必要)

<<LDAP(homeDirectory)>>

空白のままにしておくと、ユーザーはエクスポート フィールド ゾーンでネットワーク ドライブを参照できます。

備考

よく使用される LDAP プロパティと、対応する Active Directory のフィールド例：

LDAP Property	Active Directory Field
givenName	First Name
initials	Initials
sn	Last name
displayName	Display name
description	Description
telephoneNumber	Office
telephoneNumber	Telephone number
mail	E-mail
wWWHomePage	Web page
streetAddress	Street
postOfficeBox	P.O Box
I	City
St	State/province
postalCode	Zip/Postal Code
co	County/region
homeDirectory	Local path
homeDrive	Connect
homePhone	Home
pager	Pager
Mobile	Mobile
facsimileTelephoneNumber	Fax
title	Job Title
department	Department
company	Company
manager	Manager

15. XML

XML マージメソッドは、xPath 参照を使って XML ファイルからメタデータを取得します。

使用方法	
XML(xPathToElement)	ソースファイルと同じ場所にあり、名前も同じ XML ファイルから、要素の値を読み取ります。

XML(xPathToAttribute)	ソースファイルと同じ場所にあり、名前も同じ XML ファイルから、属性の値を読み取ります。
XML([XMLFilePath], [xPathToElement])	指定された XML ファイルパスから、要素の値を読み取ります。
XML([XMLFilePath], [xPathToAttribute])	指定された XML ファイルパスから、属性の値を読み取ります。

パラメータ

- **xPathToElement :**
取得対象となるデータを含む要素への xPath 参照。
- **xPathToAttribute :**
取得対象となるデータを含む属性への xPath 参照。
- **XMLFilePath :**
読み取る XML ファイルのパス。パスは Umango サーバーから見た相対パスで指定します。
デフォルトでは、インポート対象ファイルと同じ場所にあり、同じ名前で拡張子が .xml になっているファイルを参照します。
※このオプションは watched folder (監視フォルダ) 経由でファイルをインポートしている場合のみ使用可能です。

使用例

属性「Importance」の値を取得し、ファイル名に使用する。

```
<note>
  <to>Bob Down</to>
  <from>Stan Dupp</from>
  <heading>Reminder</heading>
  <body importance="high">Don't forget to bob down!</body>
</note>
```



実行結果例：ファイル名が「Importance Level HIGH」となる

16. HMLEncode

HMLEncode マージメソッドは、解析されたテキストを HTML エンコードされたテキストに変換し、XML や HTML 要素内で安全に使用できるようにします。

エンコードすることで、要素タグ内で使用できない文字（例：&,<,>,\）が安全な形に変換されます。

たとえば、< と > は、それぞれ < と > に変換されます。

使用方法	
HtmlEncode(TextToEncode)	指定されたテキストを HTML エンコードされたテキストに変換します。

パラメータ

- **TextToEncode :**

エンコード前のテキスト。

安全でない文字（特殊記号など）を含んでいる可能性があります。

使用例

ゾーンの値を XML テキストファイルの要素内に安全に配置する。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<data version="1.0">
  <user>
    <department>Development</department>
    <email>bob.d@umango.com</email>
    <name>Bob Down</name>
    <comment><<HtmlEncode(<<UserComment>>)>></comment>
  </user>
</data>
```

実行結果例：

「UserComment」ゾーンの値がエンコードされ、安全な形で XML ファイルに書き込まれます。